

ム生産パイル／171 別々の獣／176 ソ連の原子爆弾研究／178 シラードの隔離／181 増大する残
虐性／193 ハイドロ号の撃沈／196 連合軍の公式対日政策／206

第十六章 黙示録

ボーアの黙示と英米首脳の決定／213 ロスアラモスの科学者たち／239 爆縮（内破）型プルトニ
ウム爆弾／256 液体熱拡散プラントによるウラン濃縮の支援／259 サイパンとテニアンの占領／
267 ハンフォードでプルトニウムの量産始まる／272

第十七章 この時代の災い

丘の上の生活とオツペンハイマーの苦悩／279 爆縮（内破）レンズの開発／299 イニシエーター
（反応開始装置）の研究／306 日本の原子爆弾開発／313 テイベッツとルメイ／316 B-29による
日本本土への爆撃／325 八〇％濃縮ウランとプルトニウムの生産進む／345 スパイ部隊「アルソ
ス」の手柄／355 「ドラゴン実験」とルースベルトの死／363

第三部 生と死

371

（翻訳…渋谷泰一）

第十八章 トリニテイ（三位一体）

トルーマン新大統領と二人の補佐官／373 原爆投下の標的選定とヨーロッパの戦争終結／386 レ
オ・シラード、トルーマン政権に接触／400 陸軍長官スチムソンの意向／406 バーンズ、日本へ

第二部 特別統治権（上巻からの続き）

I

（翻訳…渋谷泰一）

第十三章 新しい世界

指数パイルの建設／3 S-1計画の拡張／8 ドイツの重水パイル／14 五つの方法／21 プルトニウム239の抽出／23 「スーパー」の可能性／37 水素爆弾の開発始まる／46 権力機構の介入／48 シカゴパイル1号（CP-1）／59 原子エネルギーの制御に成功／67

第十四章 物理学と荒野の地

ロスアラモス／85 重水工場への襲撃／104 日本の核エネルギー開発／108 ロスアラモス教本／110 残虐行為の激化／120 プルトニウム爆弾の設計／138 デンマークからのユダヤ人の逃亡／146

第十五章 別々の獣

オークリッジと「レーストラック」／155 気体拡散分離プラント／165 ハンフォードとプルトニウ

の投下を決定／410 トリニティ実験地ジョルナダ／427 プルトニウム爆弾の組立て始まる／433
 発射前一週間／439 トリニティ発射／457

第十九章 焰の舌

テイベッツのB-29部隊、テナアンに集結／481 ポツダム宣言／485 日本、ポツダム宣言を黙殺／
 502 インディアナポリス号の最後／504 原爆使用を支持するムード／508 リトルボーイの送達準備／
 515 「エノラ・ゲイ」、テナアンを出発／524 史上初の原子爆撃／531 広島の惨状／538 アメリ
 カでの反応／578 ソ連の参戦／581 ファットマン、長崎へ投下／583 日本降伏／593 悪夢／599

エピローグ

シラードのゆくえ／603 ロスアラモスを去る人々／610 オツペンハイマー、所長職を辞す／617
 テラーの復帰と水素爆弾の開発／629 水爆の父／639 水素爆弾の成功（ブラヴォー実験）／643
 ボーアの予見した世界へ／653 国家主義と開かれた世界／659 科学共和国は挑戦する／663

(翻訳…神沼二真)

謝辞	670
訳者あとがき	674
注釈	25
参考文献	6
人名索引	1

◎各章中の小見出しは原書にはなく、日本語版翻訳にあたり付けたものです。